

上條文穂と波多野泉 現代彫刻展

KAMIJO Fumiho and HATANO Izumi Exhibition of Contemporary Sculpture

会期 2019年9月20日(金)～2019年11月4日(月)

場所 企画ギャラリー1・2

観覧料 一般 1,200円(1,000円)／高大 800円(700円)／小中 300円(250円)

＊()内は前売および20名以上の団体料金

＊障がい者手帳をお持ちの方と介助者1名は半額です。

開館時間 9:00～18:00(金・土は20:00まで) ※入場は閉館の30分前まで

休館日 毎週月曜日、9/24(火)、10/15(火)

＊ただし、9/23(月)、10/14(月)、11/4(月)は開館

〔主催〕沖縄県立博物館・美術館

〔協力〕沖縄県立芸術大学／現代彫刻研究会／丸沼芸術の森／キャンプタルガニー

〔後援〕沖縄県教育委員会／那覇市教育委員会／沖縄県文化協会／沖縄県美術家連盟
一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー／沖縄タイムス社／琉球新報社
沖縄テレビ放送／琉球放送／琉球朝日放送／ラジオ沖縄／エフエム沖縄
fm那覇／那覇新都心通り会／沖縄県立美術館支援会 happ

観覧料 Admission	一般 Adult	高校生・大学生 High School, College and University students	小・中学生 Junior high and Elementary school students
当日 Tickets	1,200円	800円	300円
前売・団体 Advance and group tickets	1,000円	700円	250円



※20名以上の場合は、団体料金となります ※未就学児は無料です

※障がい者手帳をお持ちの方、および介助者の方1名は半額です

【プレイガイド】ミュージアムショップゆいむい、ローソンチケット(Lコード:83443)



KAMIJO
Fumiho

現代彫刻展 KAMIJO Fumiho and HATANO Izumi Exhibition of Contemporary Sculpture

上條文穂と波多野泉



HATANO
Izumi

2019 9/20 FRI ▶ 11/4 MON 9:00-18:00
月曜日 休館
Closed : Monday

企画ギャラリー1・2 Exhibition Gallery 1,2

※金・土は20:00までとなります
※入場は閉館の30分前までとなります
※月曜日が祝日にあたる場合は開館し、翌平日が休館となります
* Open until 20:00 on Fridays and Saturdays
* Last entry 30 minutes before closing.
* If the Monday is a national holiday,
museum is open and the following Tuesday will be closed.



展覧会概要

木、土、漆喰など、一貫して素材と向き合う上條文穂。観察を通して対象の中に彫刻的要素を求める波多野泉。二人の彫刻家は、沖縄県立芸術大学で長きにわたって後進を育て、沖縄の彫刻に新たな流れを生み出しています。

上條文穂（1953～）は木彫から出発し、1986年に沖縄へ移って以降は、石灰岩や漆喰、土など、沖縄の素材を用いて制作をしています。1998年のイタリア研修を経た後、原点回帰を思わせる木との対話を始め、木を薄く削ぎだして作った木の葉を集めた《八月の果て》（1999～）などを発表しています。

波多野泉（1957～）は敦煌石窟の塑像や日本の仏像から影響を受け、乾漆などの古典的な技法を用いて制作しています。「いつも好き（よき）観察者でありたい」と語る波多野は、木の実や希少動物、既存の価値観に縛られずに個を貫く「希少な人物」などをモチーフに、肖像的な彫刻を発表しています。

本展では、素材との対話を続ける上條と、対象の本質に迫る波多野、沖縄で活動する二人の彫刻家の足跡を辿り、初期から最新作まで約70点の作品をご紹介します。



《植物の境界》1990年 作家蔵



profile 上條 文穂



《土の館》1995年
沖縄県公文書館蔵

1953年長野県生まれ。1979年東京藝術大学大学院修了。1986年開学時の沖縄県立芸術大学に採用され来沖。1991年「現代彫刻研究会」を結成し、「街と彫刻展」など数多くの県内アートプロジェクト企画・運営に携わる。その間、野外彫刻としてのテラコッタ技法を確立し、国内彫刻コンペティションで受賞を重ねるほか、個展、グループ展、国際彫刻シンポジウム等で活動。2019年沖縄県立芸術大学退任。現在は那覇のアトリエにて制作を行う。

※上條 文穂《土の館》1995年は、沖縄県公文書館で恒常展示しております



《animalism (lion-tailed macaque)》
1997年 作家蔵



profile 波多野 泉



《A Vocalist-Falstaff》
2013年 作家蔵

1957年滋賀県生まれ。1984年東京藝術大学大学院修了。1988年から9年間の沖縄県立芸術大学彫刻専攻の非常勤講師を経て、1997年に同大助教授となる。1999年に國立台湾藝術學院（現・國立台湾藝術大學）の招聘國外客座芸術家副教授として台湾に滞在。以降台湾を中心にアジアの芸術大学との国際交流の企画・運営に携わる。現在は沖縄県立芸術大学教授として後進を育てながら、乾漆及び木彫による作品を中心に制作し発表している。

展覧会のみどころ

二人の彫刻作品を、作風の変化を追いながら一堂に鑑賞できる展覧会です。二人は沖縄に来たことがきっかけとなって、作品が変化しています。上條文穂は、沖縄の石灰岩をイメージした作品や、漆喰や土など、沖縄ならではの素材を使用して制作しています。波多野泉は、首里城の瓦の復元に携わった奥原崇典や画家の真喜志勉など、沖縄の人物の肖像を制作しています。二人の作品をとおして、現代彫刻の世界をお楽しみください。

展覧会の構成

上條 文穂（企画展示室2、廊下）

上條は1986年に沖縄へ移住すると、本島南部で削られたばかりの真っ白い石灰岩の地表と出会い、島の岩盤を意識した《堆積の原》を発表します。以降、島の風土にインスピレーションを得た作品を制作しています。

また、上條は沖縄の土を用いて制作する素焼き（テラコッタ）作品でも知られており、巨大作品を焼き上げる独自の方法を確立しました。上條作品展示ゾーン（企画展示室2）では、「素材から受けるイメージを大切にしている」という上條の「素材との対話」の足跡をご紹介します。



《堆積の原》1988年 作家蔵



《詩の枢》1996年 キャンプタルガニー蔵

波多野 泉（企画展示室1、アトリウム）

波多野はブロンズやテラコッタ、乾漆、FRP（繊維強化プラスチック）など、様々な素材・技法で人物像を制作してきました。「影響を受けるなら、古いモノから学びたい」という波多野は、1996年以降は、仏像で使われた技法である乾漆と木彫を主に用いて肖像を制作しています。《A Vocalist-Falstaff》などの肖像作品は、既存の価値観に縛られずに個を貫く「希少な人物」をモデルにしているといいます。波多野作品展示ゾーン（企画展示室1）では、各作品の素材の違いを見せながら、現在の肖像彫刻に至るまでの歩みをご紹介します。



《Okinawa Tolerance- 画家の肖像》2013年
当館蔵



《実について (分岐)》2009年 作家蔵

関連イベント

① オープニング、ギャラリートーク

日時：9月20日（金） 9：30～ 場所：美術館エントランス及び展示室内

② シンポジウム

日時：10月26日（土）14：30～ 場所：3階 講堂